

■第1回有識者懇談会 委員からの意見と骨子素案への記載 対応表

参考資料1

No	課題カテゴリー	小項目	ご意見(要旨)	骨子素案への記載内容 ※具体的な取組内容は計画本文に記載予定		
				内容	記載箇所	対比表ページ
1	歯止めのかからない若者の人口流出	若者の流出	テレワークの普及など柔軟な働き方を受け入れた都市部に比べ、以前の価値観で今も働く北陸は相対的に働きやすさが下がったといえる。働きやすく暮らしやすい柔軟な意識の社会に変わらないと若者の人口流出は続くと考え。例えばリカレント教育などを通じて地域や組織の価値観を変え、多様な人を認める地域になることが重要である。	「北陸圏での多様な暮らし方・働き方の提案、ダイバーシティへの対応」を記載	第3章 新しい将来像実現に向けた目標・施策 1 個性ある北陸圏の創生～安全・安心、環境と調和した地域づくり～ (1)多様な価値観やライフスタイルに応じた暮らし方・働き方のできる生活環境・雇用環境の拡充・支援	11
2	歯止めのかからない若者の人口流出	若者の流出	北陸3県は高校までの基礎学力が高いが、地域に人材を残す仕組みづくりが遅れていることが課題であり、暮らしやすく豊かな地域づくりと新産業の創出が求められる。	「優れた人材定着に向けた高等教育環境の充実及び、多様な就業環境の創出」を記載		11
3	多様な価値観を受容する地域づくり	女性活躍	北陸は多様な価値観がなく、同調圧力が強い。これは持ち家率が高いことで人材の流動性が無く価値観が固定化されてしまうことによると思われる。より多くの接点を生み出すような人材の環境づくりができれば良い。	「女性の就業・起業や社会参加等就業環境の更なる充実」を記載	第3章 新しい将来像実現に向けた目標・施策 1 個性ある北陸圏の創生～安全・安心、環境と調和した地域づくり～ (1)多様な価値観やライフスタイルに応じた暮らし方・働き方のできる生活環境・雇用環境の拡充・支援	11
4	多様な価値観を受容する地域づくり	女性活躍	少子高齢化による自然減よりも、若者、特に女性の流出による社会的減少が深刻。ある調査で、「不寛容で同調圧力の強い」とされる北陸ではこの空気感を解消する必要がある。			
5	多様な価値観を受容する地域づくり	女性活躍	北陸3県とも非常に住みやすい地域と言われ、子育て支援は非常に充実していると思われるが、若い女性が県外に出ていく。結婚しても仕事を続けられるなど女性が活躍できる企業を北陸の中で作ったり、来てもらう必要がある。また今はDXも進んでおり、都会の企業でも北陸で働けるような仕組みに取組んでほしい。			
6	多様な価値観を受容する地域づくり	女性活躍	北陸では女性が家事、育児を担い、自分の主体的人生としての自由が少ない。男性が主体となる価値観の企業、地域社会では、(女性が)主体的に仕事に関わることは評価されづらく、自立の意思を阻む恐れがある。そのような状況では企業組織の男女格差や意識は変わりにくいものと考えられる。			
7	多様な価値観を受容する地域づくり	女性活躍	20代女性が流出する社会構造を考えると、福井県は幸福度や共働き率が高いなど一見幸せそうであるようにPRされているが、女性の幸福度や社会参画率はほぼ最下位と言われている。どうすれば女性が圏外へ流出せずに北陸圏で活躍できるか真剣に考える必要があるが、経済界で活躍する管理職女性の割合、家庭内での役割分担、ジェンダー問題など、北陸の保守的風土の根本的な改革から取り組まなければ厳しいのではないか。			
8	多様な価値観を受容する地域づくり	女性活躍	地方では第三次産業の職業のバリエーションが全くないことが女性流出の理由にもなっている。雇用吸収力のある新産業育成と東京からの誘致を考えるべき。			
9	多様な価値観を受容する地域づくり	暮らしやすさ	北陸は全国的にみて比較的最低賃金が高く、出生率も高い。この強みを生かしていけるとよい。			
10	多様な価値観を受容する地域づくり	暮らしやすさ	都道府県別の経済的豊かさ(可処分所得と基礎支出)の中央世帯で北陸3県が上位にあり、県民の豊かさが抜きん出ている。北陸が理想郷となるような将来ビジョンを検討できればよい。			

■第1回有識者懇談会 委員からの意見と骨子素案への記載 対応表

参考資料1

No	課題カテゴリー	小項目	ご意見(要旨)	骨子素案への記載内容 ※具体的な取組内容は計画本文に記載予定			
				内容	記載箇所	対比表ページ	
11	個性と魅力を満載した地域づくり	地方での暮らしの維持	全国で少子高齢化と人口減少が進んでおり、北陸3県では更にそれが進展している。加えて国や地方公共団体が財政難の中で、どのように優先順位を考え予算を充てるのかという点が重要である。2030年から2040年を目標とする姿からバックキャストして、ここ数年間で必ずやるべきことを検討できればと思う。	「デジタルの活用によるリアルの実、個性と魅力を満載した地域づくり」を記載	第3章 新しい将来像実現に向けた目標・施策 1 個性ある北陸圏の創生～安全・安心、環境と調和した地域づくり～ (2) デジタルを活用した「地域生活圏」の形成	12	
12	個性と魅力を満載した地域づくり	地方での暮らしの維持	人口減少と財政難の中で公共の担い手の縮小が大きな課題となっている。一方で、経済的な価値と社会的な価値の接近が見られ、官民共創の余地が広がってきていると思う。そういったハイブリッドな目的にコミットする官民共創の組織形態を先進的にこの圏域で活用し、成長する公共の担い手を育成することが大事ではないか。				
13	個性と魅力を満載した地域づくり	地方での暮らしの維持	新しい形の地域生活圏について、基本的にはデジタルとリアルな適切な組み合わせで、大都市の利便性と地域の良さを両立を目指すものである。リアルな部分については、そこで北陸の独自の味わいを出すことで、それを魅力としていろいろな地域から人や関心を引き込むようなことができれば良い。主要な都市圏毎に特色を出し、それらが協調と競争をしながら発展していけば北陸全体としてより良い圏域ができるのではないかと考える。				
14	個性と魅力を満載した地域づくり	地方での暮らしの維持	地方生活圏で医療・介護・交通・産業等の様々な視点から地域が実情に応じて主体的に考えるように指摘されているが、地域の事情が様々なので主体的に考えるには限界がある。北欧のように高齢者が安心して最後まで生活できる圏域を実現するには、公共サービスを変革する制度設計が必要ではないかと考える。				
15	個性と魅力を満載した地域づくり	地方での暮らしの維持	リアルとデジタルとあるが、やはりリアルが大事である。リアルの人材資源の少ない地域で如何にデジタルが支援ができるかといったまちづくりの視点が大事である。				
16	個性と魅力を満載した地域づくり	地方での暮らしの維持	デジタル技術の活用について、各自治体では専門的知識、技能を持つ人材、財源の不足が指摘されているので、支援策や仕組みが作れるとよい。				「デジタル活用の推進主体に対する支援や環境整備、人材育成」を記載
17	個性と魅力を満載した地域づくり	自然環境・歴史文化との共存	北陸地域は3県とも山から海までが近く、その中で豊かな自然環境が存在し、歴史や伝統文化に育まれた街並みが存在している。住民はその恩恵を受け、享受して生きている。これらを再認識して継承していくことが北陸地域には求められている。一方で、人口減少社会において都会のような利便性を求めていくことも必要であり、豊かな自然環境、歴史や伝統文化に育まれた街並みなどと共存させていくためには守るべきところは守ることが必要である。場合によってはゾーニングのようなことも必要とよいのではないかと考える。				「優れた住環境の整備」を記載
18	多様な価値観を受容する地域づくり	暮らしやすさ	病院が多いこと、寿命が長いことや、高校までの学力も北陸3県は全国的にもトップクラスのレベルであることなど、北陸圏の強みだと思ふ。				「若者から高齢者みんなが住みやすく、2代、3代と安心して住み続けられる、地域コミュニティの維持・充実、定住化環境整備」を記載
19	多様な価値観を受容する地域づくり	暮らしやすさ	職住近接や安価でスーパーでおいしいものが買えること、比較的に安いお金で家が買えるということなど、都市部とは異なる北陸圏の魅力の強みとして計画していくべき。				「多様な価値観の尊重と暮らし方、働き方へのニーズ、地方への関心の高まりと、テレワークの普及、転職なき移住、二地域居住等の新たな暮らし方、働き方の推進」を記載
20	多様な価値観を受容する地域づくり	暮らしやすさ	北陸の暮らしは自然豊かではあるが、東京に比べると趣味・嗜好の面では楽しめる場所が少ない。普段のちょっとした楽しみができる北陸に住みたくなるのではないかと考える。				「デジタルを活用した暮らしやすさのPRIによる住みたい、移住したくなる二地域居住、定住化、UIJターン」を記載
21	多様な価値観を受容する地域づくり	移住	北陸が持っている文化や自然をベースに、SNSなどの通信技術を戦略的に組み立てていくと、東京から仕事を持って移動する「移職」につながる可能性がある。				
22	コンパクト+ネットワークづくりと接続都市圏の形成	接続都市圏の形成	北陸新幹線敦賀延伸で富山ー福井が1時間以内で繋がると、日本海側随一の100万人程度の接続都市圏ができる。				「中核都市を中心としたコンパクト+ネットワークづくりと接続都市圏の形成」を記載
23	コンパクト+ネットワークづくりと接続都市圏の形成	接続都市圏の形成	地域生活圏は人口10万人を1つの圏域とするとするが、30万人から10万人になり、狭くなって良いと思ふ。10万人の設定の考え方ではまだよくわからないところもあるが、圏域の中心拠点は必ずしも人口が多いところの拠点だけではなく、5万人、3万人、1万人も中心部は非常に個性豊かで観光面でも大事などころなので、そういったところにかに拠点を形成していけるかという観点が大事だと思ふ。				
24	コンパクト+ネットワークづくりと接続都市圏の形成	接続都市圏の形成	北陸新幹線敦賀延伸により、北陸で形成される地域生活圏のほぼすべての圏域で新幹線駅を持つこととなるので、これを活かして高度人材集積型の都市型サービス産業の発展に活用するべき。	「海外や国内他地域からの企業の製造拠点・本社・研究開発・研修機能等の誘致や人材育成、誘致による地域産業の活性化」を記載			
25	コンパクト+ネットワークづくりと接続都市圏の形成	接続都市圏の形成	北陸新幹線の拠点駅と周辺地域を結びつけるオンデマンド交通やシェアリングなどの手段を充実させることが大事である。	「中核都市を中心としたコンパクト+ネットワークづくりと接続都市圏の形成」を記載			
26	コンパクト+ネットワークづくりと接続都市圏の形成	接続都市圏の形成	北陸圏の中で各施策、整備内容等をどのように地域配分するか、地理的特性や活動内容等を考慮して適切な配置、役割分担を検討することが必要。地域生活圏の単位で考えることも有効である。				
27	将来的な社会基盤施設の維持	インフラ整備	人口減少、少子高齢化が進む北陸圏では、今ある資源やインフラをどのように維持管理していくかという点も健全な国土形成、持続可能な生活を創造する上で不可欠な観点である。	「デジタルを活用したインフラの長寿命化等対策などインフラマネジメントの構築」を記載			
28	将来的な社会基盤施設の維持	インフラ整備	北陸圏での最適人口規模を目標として設定する必要がある。その上で人口減少の幅と維持すべきインフラを議論すべき。				
29	将来的な社会基盤施設の維持	インフラ整備	国土の保全・管理について、地方では人口減少が急速に進んでおり、どうすれば保全できるのか強い危機感を持っている。人的、財政的に限界がある中、優先順位を示しながら保全のあり方について合意形成を図っていく必要がある。				

■第1回有識者懇談会 委員からの意見と骨子素案への記載 対応表

参考資料 1

No	課題カテゴリー	小項目	ご意見(要旨)	骨子素案への記載内容 ※具体的な取組内容は計画本文に記載予定		
				内容	記載箇所	対比表ページ
30	安全・安心な地域づくり	自然災害	南海トラフ地震の発生前後には北陸地方の活断層が動く可能性も高いので、北陸で強い地震が発生した場合でも大きな被害とならないように対策を考えよう。	「災害に強い国土形成」を記載	第3章 新しい将来像実現に向けた目標・施策 1 個性ある北陸圏の創生～安全・安心、環境と調和した地域づくり～ (3)安全・安心な地域づくりに向けて、あらゆる関係者が連携・協働し、ソフト・ハード一体となった防災・減災対策の一層の強化、推進	13
31	安全・安心な地域づくり	自然災害	除雪が間に合わないという話が深刻になっている。水害も同様であるが、優先順位も含め、このような条件不利地にいつまでも住み続けられるのだろうかということを実際に考える必要がある。			
32	安全・安心な地域づくり	自然災害	北陸圏は太平洋側に比べ住民や企業、組織などの災害への危機感が薄く、防災対策なども遅れがちになっている。雪害のように北陸圏ならではの災害リスクも存在する。高齢化、過疎化の進む地域で災害弱者を守る計画の立案を希望する。	「災害に強い国土形成」及び「減災に資する地域コミュニティを活かした体制の構築」を記載		
33	安全・安心な地域づくり	自然災害	自然災害の激甚化に対し、住民への地域防災力の向上のための啓発やインフラ老朽化対策によるレジリエンス強化等を伝えていく必要がある。	「デジタルを活用したインフラの長寿命化等対策などインフラマネジメントの構築」、「デジタル技術を活用した的確な防災情報の提供・発信や災害情報の把握・共有による地域防災力の向上」を記載	第3章 新しい将来像実現に向けた目標・施策 1 個性ある北陸圏の創生～安全・安心、環境と調和した地域づくり～ (2)デジタルを活用した「地域生活圏」の形成 (3)安全・安心な地域づくりに向けて、あらゆる関係者が連携・協働し、ソフト・ハード一体となった防災・減災対策の一層の強化、推進	12 13
34	安全・安心な地域づくり	自然災害	気候危機とも呼ぶべき状況の中で、緩和策(ゼロカーボン)と適応策(災害対策)の枠組みを示すことで計画のあり方が明確になる。ただし、適応策は限界があるので、地域防災力を高めつつ、何を重視しどこをあきらめるのかといった優先順位、取捨選択について議論する必要がある。	「災害に強い国土形成」、「脱炭素地域づくり」を記載	第3章 新しい将来像実現に向けた目標・施策 1 個性ある北陸圏の創生～安全・安心、環境と調和した地域づくり～ (3)安全・安心な地域づくりに向けて、あらゆる関係者が連携・協働し、ソフト・ハード一体となった防災・減災対策の一層の強化、推進 (4)豊かな自然環境の保全と地域循環共生圏の形成、脱炭素地域づくり	13 14
35	安全・安心な地域づくり	暮らしやすさ	衣食住、文化、治安、豊富な水と緑、カーボンニュートラルも含め、北陸は非常に先進的。防災面でも比較的強固であると思われる。	「優れた住環境の整備」、「災害に強い国土形成」、「脱炭素地域づくり」を記載	第3章 新しい将来像実現に向けた目標・施策 1 個性ある北陸圏の創生～安全・安心、環境と調和した地域づくり～ (2)デジタルを活用した「地域生活圏」の形成 (3)安全・安心な地域づくりに向けて、あらゆる関係者が連携・協働し、ソフト・ハード一体となった防災・減災対策の一層の強化、推進 (4)豊かな自然環境の保全と地域循環共生圏の形成、脱炭素地域づくり	12 13 14
36	安全・安心な地域づくり 担い手確保と地域ブランド力の更なる強化	暮らしやすさ	北陸の豊かさを表すものとしてエネルギー、食料がある。我が国ではエネルギー・食料ともに海外依存が高いことが課題であり、その課題解決に向けて北陸が日本の代表になる可能性がある。	「脱炭素地域づくり」、「食料の安定供給と農山漁村の活性化」を記載	第3章 新しい将来像実現に向けた目標・施策 1 個性ある北陸圏の創生～安全・安心、環境と調和した地域づくり～ (4)豊かな自然環境の保全と地域循環共生圏の形成、脱炭素地域づくり 2 競争力のある産業の育成～北陸の農林水産業やものづくり産業の一層の活性化～ (1)デジタルの活用による圏域の食料供給力と地域ブランド力の更なる強化	14 15
37	豊かな自然環境の保全と脱炭素地域づくり	脱炭素	カーボンニュートラルの促進を図るため電気自動車が目ざされているが、電気自動車の普及のためには急速充電器のインフラ整備が必要である。	「脱炭素地域づくり」を記載	第3章 新しい将来像実現に向けた目標・施策 1 個性ある北陸圏の創生～安全・安心、環境と調和した地域づくり～ (4)豊かな自然環境の保全と地域循環共生圏の形成、脱炭素地域づくり	14
38	豊かな自然環境の保全と脱炭素地域づくり	脱炭素	農地や放牧地でのソーラーシェアリングの導入などで、北陸でも太陽光発電の活用・導入促進が可能である。			
39	豊かな自然環境の保全と脱炭素地域づくり	脱炭素	日本は欧米に比べ長距離貨物輸送の鉄道利用率が低い。物流量は増加と迅速化の傾向にあり、物流の鉄道へのシフトが望ましい。ネットショップなどによる小型宅配貨物の増加については新幹線を貨客混載にすることで大量化、高速化、低炭素化が促進できるのではないか。			
40	豊かな自然環境の保全と脱炭素地域づくり	脱炭素	SDGsとカーボンニュートラルの達成という観点から、地域生活圏と環境分野での地域循環圏を融合させて地域の中でエネルギー循環させていくこと、地域生活圏単位でカーボンニュートラルを達成していくことが重要である。また、金沢のような地方都市部と過疎地域のつながりを強化することがSDGsの達成にも関わってくると思われる			
41	豊かな自然環境の保全と脱炭素地域づくり	ローカルSDGs	地域住民は努力しているが従来に比べると地域力が脆弱化しており、交通、防災、地域福祉などでは弱者の発生が問題となり、ニーズも多い。持続可能な地域づくりのためにローカルSDGsという概念を普及させ、地域住民の役割や地方自治体との連携のあり方などを皆で合意形成し、内発的な動機づけを図っていくべきではないか。	「脱炭素地域づくり」及び「エネルギー技術開発の推進」を記載		
42	ものづくり産業の集積を活かした競争力強化とイノベーションの取組の継続	産業誘致	令和の産業再配置に向けては地方も受け皿をつくりながらしっかりと取り組むことが重要。一つの産業の拠点を形成するという観点も大事であるし、あるいは集約化して圏域の拠点を形成できるかといったことが大きなテーマかと思う。	「海外や国内他地域からの企業の製造拠点・本社・研究開発・研修機能等の誘致や人材育成、誘致による地域産業の活性化」を記載	第3章 新しい将来像実現に向けた目標・施策 2 競争力のある産業の育成～北陸の農林水産業やものづくり産業の一層の活性化～ (3)地理的条件を活かした産業拠点の形成と、国内・海外との経済連携や情報発信の強化	16
43	三大都市圏との連携強化と新産業拠点の形成	三大都市圏との連携強化	北陸新幹線敦賀延伸では新しい交通輸送体系の先進的なモデルとして、人が持つ知恵やアイデア、人と人との信頼関係を運ぶ手段として捉え、遠くにある知恵、経営資源とつながり、北陸へ呼び込む取り組みを盛り上げることが大事である。			

■第1回有識者懇談会 委員からの意見と骨子素案への記載 対応表

参考資料1

No	課題カテゴリー	小項目	ご意見(要旨)	骨子素案への記載内容 ※具体的な取組内容は計画本文に記載予定		
				内容	記載箇所	対比表ページ
44	担い手確保と地域ブランド力の更なる	担い手確保	農業の現状は、高齢化が進み耕作放棄地が増えていることはこの十数年変わっていない。平均年齢が約68歳で、数字を見たら20年後はどうなるのかと思う。	「農林水産業に取り組む人材の確保・育成」を記載	第3章 新しい将来像実現に向けた目標・施策 2 競争力のある産業の育成～北陸の農林水産業やものづくり産業の一層の活性化～ (1)デジタルの活用による圏域の食料供給力と地域ブランド力の更なる強化	15
45	担い手確保と地域ブランド力の更なる	担い手確保	実際に農業をしながら里山(限界集落)に暮らしていて、循環型の農業等で里山でも生活できる可能性を感じながら追求している。皆さんができる可能性を示している。			
46	担い手確保と地域ブランド力の更なる	スマート農林水産業	大規模圃場整備やスマート農業の導入により生産効率を上げ、第一次産業の活性化につなげられると良い。また、ワインづくりなど新しい取組の情報連携も含め、第一次産業に従事する人をサポート出来ると良い。			
47	担い手確保と地域ブランド力の更なる	海外展開	有機農業のマーケットは諸外国と比べて少ないといわれるが、これから日本国内、世界に向けてオーガニック食品の販路の伸びしろがまだあると考えている。	「食のブランド化と海外展開の推進」を記載		
48	地域経済の成長を底上げする物流の	国内・海外との連携強化	これまで「環日本海」という形で取り組んできた人的ネットワークやノウハウを活かして、東南アジア、南アジア、アフリカなどにネットワークを伸ばしていく視点が北陸には必要。関係人口は必ずしも国内に閉じる必要はなく、世界に開いたグローバルな関係人口拡大に向けて北陸でどう取り組んでいくのかということが重要かと思う	「産業分野におけるデジタルによる情報発信と、国際展示会や世界各地から研究者等を招いた学術交流、国際コンベンション誘致・開催の推進、体制づくり」を記載	第3章 新しい将来像実現に向けた目標・施策 2 競争力のある産業の育成～北陸の農林水産業やものづくり産業の一層の活性化～ (3)地理的条件を活かした産業拠点の形成と、国内・海外との経済連携や情報発信の強化	16
49	地域経済の成長を底上げする物流の	国内・海外との連携強化	産業面では量の追求から高付加価値追求への転換が求められている。工業が中心の時代はコストをベースにそれにマージンをのせて価格を決定する考え方が中心であったが、今後はコストと切り離して社会が求める価値で価格を決定することが大事であり、社会的価値向上に向けては、北陸独自のサステナビリティ、ナラティブ(物語)、人を魅了するシーンといったものを全面に打ち出して行く必要がある。			
50	太平洋側の広域的な災害リスク等を契	バックアップ機能	想定される東南海地震などの災害発生にあたり、東京と大阪の間にある北陸の立地的な特性を計画で検討させるべき。	「災害に強い国土づくりの観点から日本海側と太平洋側の連携、バックアップ機能」を記載	第3章 新しい将来像実現に向けた目標・施策 3 日本海側の中枢圏域の形成 ～日本海沿岸地域との連携強化と太平洋側との連携強化～ (1)日本海沿岸圏域及び太平洋側圏域との連携強化のための物流・交通ネットワークの充実	17
51	太平洋側の広域的な災害リスク等を契	バックアップ機能	太平洋側の被災時には北陸圏が初期段階の緊急対応から復旧・復興の支援まで担う役割が期待されており、計画の中で実効性のある提言、行動方針等を示すことが望まれる。			
52	太平洋側の広域的な災害リスク等を契	バックアップ機能	おそらく10年ほどで発生すると考えられている南海トラフ地震を乗り越えられるか、我が国にとっては最も重要な課題であり、太平洋ベルト地帯が被災した場合、救えるのは日本海側しかない。全国計画の中間とりまとめでも、機能分散、産業再配置がキーワードになっている。北陸圏の広域地方計画では全国における北陸圏の立ち位置も考えながら策定を進めていくとよい。			
53	北陸圏内の地域資源の磨き上げと周	受入環境・PR	北陸では雪を地域ブランドの象徴として位置づけて使うことが考えられるのではないか。	「伝統的な産業、自然・歴史に培われた暮らしの継承・発信」を記載	第3章 新しい将来像実現に向けた目標・施策 4 交流・関係人口の創出～北陸の魅力を活かした国内外との対流・交流の創出～ (1)伝統産業、歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの充実、関係人口の拡大	18
54	北陸圏内の地域資源の磨き上げと周	受入環境・PR	金沢がブームでなく継続して観光客が多いのは、しっかりと魅力があるからと考える。単に観光客数を目標とするのではなく、北陸の各都市がやりたい姿、観光客とどのような関係を構築するかを議論することが重要。	「受入環境の充実」を記載		
55	北陸圏内の地域資源の磨き上げと周	受入環境・PR	北陸では隣接する都市間でのPRが北陸は弱い。石川に来て、富山や福井の話が分からないといった点ももったいない。強化すべきである。	「受入環境の充実」、「国内外、隣接圏域との交流充実、広域観光充実」を記載		
56	北陸圏内の地域資源の磨き上げと周	受入環境・PR	観光は農林水産業、交通事業者、小売りなど裾野の広い産業であり、日本で数少ない成長産業でもあるので、インバウンドも含めて力を入れて頑張るべきである	「国内外、隣接圏域との交流充実、広域観光充実」を記載		